

様式第1号

令和6年6月27日

文部科学大臣 殿

〔設置者の名称〕 国立大学法人岡山大学

〔代表者の役職〕 学長 〔代表者の氏名〕 那須 保友

大学等における修学の支援に関する法律第7条第1項の確認に係る申請書

○申請者に関する情報

大学等の名称	岡山大学
大学等の種類 (いずれかに○を付すこと)	(○大学・短期大学・高等専門学校・専門学校)
大学等の所在地	岡山県岡山市北区津島中一丁目1番1号
学長又は校長の氏名	那須 保友
設置者の名称	国立大学法人岡山大学
設置者の主たる事務所の所在地	岡山県岡山市北区津島中一丁目1番1号
設置者の代表者の氏名	那須 保友
申請書を公表する予定のホームページアドレス	受験生の方： <a href="https://www.okayama-u.ac.jp/tp/prospective/index.html">https://www.okayama-u.ac.jp/tp/prospective/index.html</a> 在学生・保護者の方： <a href="https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/index.html">https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/index.html</a>

※ 以下のいずれかの□にレ点 (☑) を付けて下さい。

確認申請

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第5条第1項に基づき確認申請書を提出します。

更新確認申請書の提出

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第5条第3項に基づき更新確認申請書を提出します。

※ 以下の事項を必ず確認の上、すべての□にレ点 (☑) を付けて下さい。

この申請書 (添付書類を含む。) の記載内容は、事実と相違ありません。

確認を受けた大学等は、大学等における修学の支援に関する法律 (以下「大学等修学支援法」という。) に基づき、基準を満たす学生等を減免対象者として認定し、その授業料及び入学金を減免する義務があることを承知しています。

- 大学等が確認を取り消されたり、確認を辞退した場合も、減免対象者が卒業するまでの間、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。
- この申請書に虚偽の記載をするなど、不正な行為をした場合には、確認を取り消されたり、交付された減免費用の返還を命じられる場合があるとともに、減免対象者が卒業するまでの間、自らが費用を負担して、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。
- 申請する大学等及びその設置者は、大学等修学支援法第7条第2項第3号及び第4号に該当します。

○各様式の担当者名と連絡先一覧

様式番号	所属部署・担当者名	電話番号	電子メールアドレス
第1号	学務部学務企画課・ 奥井伸二郎	086-251-7186	gkikaku@adm.okayama- u.ac.jp
第2号の1	同上	同上	同上
第2号の2	同上	同上	同上
第2号の3	同上	同上	同上
第2号の4	同上	同上	同上

○添付書類

※ 以下の事項を必ず確認し、必要な書類の□にレ点 (☑) を付けた上で、これらの書類を添付してください。(設置者の法人類型ごとに添付する資料が異なることに注意してください。)

「(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置」関係

- 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数等の基準数相当分》
- 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》

「(2)-①学外者である理事の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の設置者の理事（役員）名簿

「(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織に関する規程とその構成員の名簿

「(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」関係

- 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料
- 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》【再掲】

**その他**

- 《私立学校のみ》経営要件を満たすことを示す資料
- 確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	岡山大学
設置者名	国立大学法人岡山大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
文学部	人文学科	夜・通信	72	0	58	130	13	
教育学部	学校教育教員養成課程 養護教諭養成課程	夜・通信	72	0	162	234	13	
法学部	法学科	夜・通信	72	0	22	94	13	
法学部	法学科	①夜・通信	72	0	6	78	13	
経済学部	経済学科	夜・通信	72	0	23	95	13	
経済学部	経済学科	①夜・通信	72	0	4	76	13	
理学部	数学科 物理学科 化学科 生物学科 地球科学科	夜・通信	72	4	0	76	13	
医学部	医学科	夜・通信	72	0	129	201	19	
	保健学科	夜・通信	72	0	199	271	13	
歯学部	歯学科	夜・通信	72	0	104.95	176.95	19	
薬学部	薬学科	夜・通信	72	0	63.5	135.5	19	
	創薬科学科	夜・通信	72	0	18.75	90.75	13	
工学部	工学科機械システム系	夜・通信	72	25	12	109	13	
	工学科環境・社会基盤系	夜・通信	72	25	66	163	13	

	工学科情報・電気・数理・データサイエンス系	夜・通信	72	25	23	120	13	
	工学科化学・生命系	夜・通信	72	25	4	101	13	
	工学科情報工学先進コース	夜・通信	72	25	0	97	13	
	機械システム系学科	夜・通信	72	25	7	104	13	
	電気通信系学科	夜・通信	72	25	19	116	13	
	情報系学科	夜・通信	72	25	4	101	13	
	化学生命系学科	夜・通信	72	25	6	103	13	
環境理工学部	環境数理学科	夜・通信	72	1.5	2	75.5	13	
	環境デザイン工学科	夜・通信	72	1.5	51.5	124	13	
	環境管理工学科	夜・通信	72	1.5	10	83.5	13	
	環境物質工学科	夜・通信	72	1.5	1	74.5	13	
農学部	総合農業科学科	夜・通信	72	0	13	85	13	
グローバル・ディスカバリー・プログラム		夜・通信	72	0	17	89	13	
<p>(備考) 2021年度より工学部と環境理工学部が統合し、「工学科 機械システム系/環境・社会基盤系/情報・電気・数理・データサイエンス系/化学・生命系」を設置。 2024年度より工学部に「工学科 情報工学先進コース」を設置。</p>								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

[https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/syllabus\\_link.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/syllabus_link.html)

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	岡山大学
設置者名	国立大学法人岡山大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/profile04.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	文部科学省	2023. 4. 1～ 2025. 3. 31	財務・施設担当
非常勤	岡山県企業と大学との 共同研究センター長	2023. 4. 1～ 2025. 3. 31	地域共創担当
非常勤	株式会社フジワラテク ノアート 代表取締役 社長	2023. 4. 1～ 2025. 3. 31	ウェルビーイング 経営担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	岡山大学
設置者名	国立大学法人岡山大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>シラバスについては、「岡山大学シラバス作成ガイドライン」において、シラバスのフォーマットは全学で統一としたうえで、授業内容、到達目標、教科書、成績評価の方法などの基本項目を定めている。また、フォーマットの詳細は定期的に見直すこととしている。</p> <p>各授業担当教員は、岡山大学シラバス作成ガイドラインに基づき作成された、全学統一シラバスフォーマットに、「シラバス作成上の留意事項」「シラバス入力の手引き」等に従い、シラバスを作成する。</p> <p>全授業科目において学生の履修登録開始前の3月末までに日本語版、英語版シラバスを作成し、HPにて公開しており、学外からも閲覧可能としている。</p>	
授業計画書の公表方法	<a href="https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/syllabus_link.html">https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/syllabus_link.html</a>
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各授業科目の到達目標、成績評価の方法・基準等は、シラバスに明記することにより、予め学生に周知し、学生からの質問や疑問には適切に応じている。</p> <p>成績評価は、授業の形態(講義、実験、実習、演習、実技等)に対応し、期末テストのみに偏重することのないよう、出席、学習態度、報告・発表、レポート、テスト等の多様な要素を組み合わせ、多面的な方法によって行っている。</p> <p>また、成績評価の客観性を担保すると共に国際的に通用するルーブリックの事例集を全学に提示し、ルーブリックに基づく成績評価を推進している。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>GPA 制度を導入し、HP 及び各学部学生便覧等にて学生に周知している。GPA は、以下の計算式で算出した GP (グレードポイント) を用いて算出する。</p> $GP = (\text{評点} - 55) / 10$ <p>※ 不合格 (評点 60 点未満) の GP は「0」とする。</p> <p>GPA の計算式は、以下のとおり</p> <p>分子…履修登録した授業科目の単位数×その授業科目の GP の総和</p> <p>分母…履修登録した授業科目の単位数の合計</p> <p>※「認定」又は「修了」の評語により、単位を修得した科目や履修登録の取消手続きをした科目は、GPA 算出の対象とはならない。</p> <p>各自の GPA は学生本人及び指導教員等は随時確認が可能となっており、個々の学生への指導の際や、各種選考の基準、教学 IR の分析データなどに活用されている。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	<a href="https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/gpa.html">https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/gpa.html</a>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学では、ディグリー・ポリシーを全学、各学部・学科単位で定め、HP、大学案内、学生便覧等にて公開している。本学におけるディグリー・ポリシーとは、卒業に際し、当該課程における要件として学生が身につけているべき能力を明示したものであり、平成 30 年度より、学生が履修する授業科目によって「何ができるようになるか」を明確化し、どの様な学習成果を上げれば卒業を認定し、学位を授与するのかという方針をできる限り具体的に示すことを目的として、観察可能な能力を「コンピテンシー」として明示しディグリー・ポリシーと関連付けしている。</p> <p>定められた卒業要件を満たすことがディグリー・ポリシーで示す学生が身につけているべき能力を満たすこととなり、学生の修得単位数等を踏まえ、学部長の申し出により学長が卒業を認定している。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	<a href="https://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/education-policies.html">https://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/education-policies.html</a>



様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	岡山大学
設置者名	国立大学法人岡山大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.okayama-u.ac.jp/upload_files/soumu-pdf/zaimu_syohyoR4.pdf">https://www.okayama-u.ac.jp/upload_files/soumu-pdf/zaimu_syohyoR4.pdf</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.okayama-u.ac.jp/upload_files/soumu-pdf/zaimu_syohyoR4.pdf">https://www.okayama-u.ac.jp/upload_files/soumu-pdf/zaimu_syohyoR4.pdf</a>
財産目録	—
事業報告書	<a href="https://www.okayama-u.ac.jp/upload_files/soumu-pdf/jigyoR4.pdf">https://www.okayama-u.ac.jp/upload_files/soumu-pdf/jigyoR4.pdf</a>
監事による監査報告(書)	<a href="https://www.okayama-u.ac.jp/upload_files/soumu-pdf/kanji_iken_r4.pdf">https://www.okayama-u.ac.jp/upload_files/soumu-pdf/kanji_iken_r4.pdf</a>

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	
中長期計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: <a href="https://www.okayama-u.ac.jp/user/tqac/tenken/report/r4jiko.pdf">https://www.okayama-u.ac.jp/user/tqac/tenken/report/r4jiko.pdf</a>
---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:
-------

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的（公表方法： <a href="https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html">https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html</a> ）
（概要） 本学部は、人文科学諸領域の文化を総合し、新たな価値を創造するため、専門の学術を教育研究し、知的、感性的能力を涵養して社会的要請に応ずる人材を育成し、世界文化の進展に寄与することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： <a href="https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-let.pdf">https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-let.pdf</a> ）
（概要） 文学部は、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。  修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力  <b>【実践力】人間をめぐる多様な課題の解決を目指し、創造的に活動できる実践力</b> 人間と世界についての多様な理解をもとに、課題の解決を目指し、新たな時代を創るために行なうことができる。  <b>【探究力】人間をめぐる多様な課題を発見し多面的に追求する探究力</b> 人間の関わる様々な領域、とりわけ社会・思想・文化・歴史・心・地域・言葉に対する論理的思考力を働かせ、現代の課題を見出し探求することができる。  <b>【コミュニケーション力】他者と議論し協働するコミュニケーション力</b> 必要な情報を収集し、適切な方法で客観的に分析・考察し、その過程と結果を他者と共有し議論することを通して協働することができる。  <b>【専門力】人文学の様々な分野に関わる専門力</b> 人文学の多様な専門分野における学識と技能、すなわち文献の読解、資料の分析、あるいは実験・調査を行う能力を修得し、それらを活用することができる。  <b>【教養力】幅広い視野を獲得する教養力</b> 人文学的見地に基づいた課題の発見と解決の方法について学ぶことで、豊かな感性、先入観に惑わされない公正な思考、自分を客観的に把握する能力を身につけ、生涯にわたる幅広い視野を獲得することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： <a href="https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-let.pdf">https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-let.pdf</a> ）
（概要） 卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、文学部として以下の方針及び考え方にに基づき、教育課程を編成し、実践します。  <b>教育の実施方針</b> 現代の社会における課題解決に向けて、学生が人文学の視点から主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。  <b>教育内容の考え方</b>

人文学の深い学びの視点から、学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容を提供します。

### 【共通教育】

全ての学生に共通して求められる多面的な教養と汎用的な技能の育成を目指し、多様な学生と交流し共に学ぶ教育を提供します。

自分自身とは異なる考えを持つ人とも対話や協働を可能にするために必要な知識や技能を身につけるカリキュラムを提供します。

### 【専門教育】

人文学の専門領域の内容を体系的に学ぶことによる深い学識と、様々な専門領域を多面的に学ぶことによる広く学際的な知識を修得する機会を提供します。

自身の専門領域の基礎的かつ体系的な知識と技能を深く学び、同時に専門外の様々な領域についても広く学ぶことにより、他者との協働の中で人文学を総合的に理解するカリキュラムを提供します。

人間に深く関わる思想・芸術・社会・文化・地域・心理・歴史・言語・文学を総合的に探究するため、「哲学・芸術学」「地理学・社会学・文化人類学・社会文化学」「心理学」「歴史学・考古学」「言語文化学」の5つの教育分野を設置しています。

### 【言語教育】

グローバル社会を生きるうえで必要となる多面的な言語能力を伸ばし、多言語教育の機会を提供します。

すべての学びの基礎となる日本語能力（聞く・読む・話す・書く力）を1年次の「人文学の基礎」から継続的に育成するとともに、そのもとで英語を始めとする諸外国語を、その文化的・歴史的背景とともに多面的に学ぶ機会を提供します。実践演習では外国語や古文・漢文の文献読解の技法を学び、共通科目では英語・ドイツ語・フランス語・ギリシア語・ラテン語・ロシア語・オランダ語・韓国語・中国語など多様な外国語を学ぶ機会を提供します。留学生には日本文化の理解に基づいた総合的で高度な日本語能力を学ぶ機会を提供します。

### 教育方法の考え方

1年次では、「人文学の論点」「人文学入門演習」で大学での学習・研究の基礎となる知識や方法について学びます。また、2年次以降は、各分野の学問の基本体系を学ぶ「人文学概説」、各分野の学術研究の最新の成果を解説する「人文学講義」、各分野の研究の技法を実践的に学ぶ「実践演習」、卒業論文の作成のための実地指導である「課題演習」を開設しています。演習科目においては少人数教育を重視し、ディスカッション等を通じて、生きた知識を身につけることを目指します。

文学部では、プログラム制を導入し主専攻プログラム・総合人文学プログラム・アドバンスプログラム（心理職養成プログラム、学芸員養成プログラム、外国語習得・留学プログラム、研究力養成プログラム）を開設しています。

入学後1年次生は、指導教員やアカデミック・アドバイザーの支援を受けながら、どのような授業科目を履修し、どのような知識や能力を身につけて卒業するかという4年間の学修計画を主体的に立案します。その後も指導教員やアカデミック・アドバイザーの継続的な支援のもと、学修計画を修正しつつ卒業論文作成に向けて学修を進めていくことになります。4年次での卒業論文作成をもって、文学部で培ってきた実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力を総合し、4年間の学びの集大成とします。

### 学修評価の考え方

授業科目の成績評価については、その基準・方法（授業参加・発表・レポート・試験など）をシラバスなどで予め明示し、それに基づいて学修成果を厳格に評価します。

卒業論文については、審査基準・方法を明示した上で、主査・副査2名以上による査読及

<p>び口述試験を行い、それに基づいて厳格に評価します。</p> <p><b>正課外教育の考え方</b>          学生が授業での学びを越えて広く知を求め他者と交流する正課外の機会を提供します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：<a href="https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-let.pdf">https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-let.pdf</a>）</p>
<p>（概要）          文学部は、以下に掲げた力を身につけた人を求めます。</p> <p><b>求める人材像</b>          岡山大学のアドミッション・ポリシーのもと、文学部では、課題に取り組む実践力、課題と自らの考えを結びつける探究力、自らの課題や構想をわかりやすく的確に表現できる力、学びそのものに興味を持ち工夫できる力や、高校卒業程度の基礎的な知識と語学力を身につけている人を広く求めます。          入学後の学修のため、特に以下の教科の内容を修得していることが望まれます。  <b>【国語、外国語、地理歴史、公民】</b></p> <p><b>求める力</b>  <b>【実践力】</b>          自らの課題と取り組むことができる  <b>【探究力】</b>          課題に対する自らの考えを導き出すことができる  <b>【コミュニケーション力】</b>          自らの疑問や興味、考えをわかりやすく的確に表現できる  <b>【専門力】</b>          高校卒業程度の基礎的な知識・語学力を備えている  <b>【教養力】</b>          学びそのものに興味を持ち、工夫することができる</p>

<p>学部等名 教育学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：<a href="https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html">https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html</a>）</p>
<p>（概要）          本学部は、管理学則に示す大学の目的を達成するとともに、教育の理論及び実際を教授研究し、学校教育の分野等で活躍する有為な人材を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：<a href="https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-edu.pdf">https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-edu.pdf</a>）</p>
<p>（概要）          教育学部は、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。</p> <p>修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力</p> <p><b>【実践力】教育活動を展開できる探究力を基盤とした実践力</b>          特色ある教育活動を展開するために常に探究心をもった教育者として活躍することができる。</p> <p><b>【探究力】自ら問うて、課題を見出す探究力</b>          自ら理論を基盤とした実践と、理論を通じた学びから課題を見出し、学校教育の推進のために自己研鑽を続けることができる。</p>

**【コミュニケーション力】情報を収集し発信できる能力を有し、良好な人間関係を構築するコミュニケーション力**

必要な情報を収集・分析し、正しく活用できる能力を有し、効果的な情報発信ができることに加えて、周囲との良好な人間関係を構築できる。

**【専門力】教育者として社会に貢献できる専門力**

教育に関する諸科学の知識と技能を幅広く習得し、倫理観を持って創造的に教育実践できる。

**【教養力】自然や社会に関心を持ち、継続して学ぶ教養力**

自然や社会の多様な問題に対して関心を持ち、問題解決に向けて論理的思考力・判断力・創造力を発揮するために、学び続けることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：[https://www.okayama-u.ac.jp/up\\_load\\_files/freetext/education-policies/file/3policy-edu.pdf](https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-edu.pdf)）

**（概要）**

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、教育学部として以下の方針及び考え方にに基づき、教育課程を編成し、実践します。

**教育の実施方針**

持続可能社会の実践に向けて学生が主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。

**教育内容の考え方**

主体的・対話的で深い学びの視点から、「何を教えたか」から学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容を提供します。

**【共通教育】**

教師をめざす学生に共通して求められる汎用的技能の育成を目指し、他の学生と学び合う、共に育ち共に創る実践的な活動を提供します。

教育者としての自覚を促し、子供理解と人間関係を構築する力の育成、教育システムの理解等を目指すカリキュラムを提供します。

**【専門教育】**

教育に関する諸科学の知識と技能を幅広く身につけ、理論と実践を往還しつつ、反省的・創造的な教育実践を開発する機会を提供します。

教師としての力量を形成する専門知識及び技能、自身の専攻する校種や教科等に対応した提案的な教育活動を構想・実践力を身につけるカリキュラムを提供します。

**【言語教育】**

グローバルマインドとリサーチマインドを持ち、品位と思いやりを備えた教育者として社会を生きるうえで必要とされるコミュニケーション力と行動力を伸ばす教育を提供します。

聞く、読む、話す、書く、を統合した総合力を伸ばすために必要な英語、子供理解と異文化理解の科目群を通じて言語と対話力を学ぶ機会を提供します。加えて、学校現場で求められる教育支援を理解する機会を創出します。

### 教育方法の考え方

前述の教育内容を以下の方法で提供します。

- ①自身の可能性を主体的に広げる教育方法を展開します。  
人が交わる共通教育、知が交わる専門教育、言葉が交わる言語教育を通して他者を理解し、切磋琢磨しながら、自身の可能性を広げる教育方法を実施します。
- ②総合大学の特長を活かした教育体系を提供します。  
自らの専門を尊重しながらも、様々な専門との出会いにより、共に考え、共に動き、共に創り、共に育む教育体系を全ての課程で展開します。
- ③学生の成長に応じた実践的な教育プログラムを提供します。  
留学やインターンシップ、プラクティカム等、地域や世界とつながった実社会における学びを提供します。

### 学修評価の考え方

厳格な学修評価を実施します。

講義科目では主に総括的評価を、実習・演習科目では主に形成的評価を重視します。教師を目指す学生としての基幹的な資質・能力の修得状況について、A+・A・B・C・F評価で実施し、到達目標の概ね達成の基準Cを設定しています。各科目の評価方法はシラバス等により履修者に示します。卒業研究は、審査基準・方法を明示するとともにそれらに基づいた成果の最終審査・試験を行います。

### 正課外教育の考え方

学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる正課外の機会を提供します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：[https://www.okayama-u.ac.jp/up\\_load\\_files/freetext/education-policies/file/3policy-edu.pdf](https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-edu.pdf)）

（概要）

教育学部は、以下に掲げた力を身につけた人材を求めます。

#### 求める人材像

教育および子供の発育発達と心身の健康について関心と熱意をもち、子供の全人的成長および学校教育の発展、さらには地域社会に貢献したいという明瞭な目的意識を持つ、以下の人材を求めています。

#### 求める力

##### 【実践力】

子供たちと一緒に活動することが好きで、学ぶことの楽しさを伝えるために、何事にも興味を持ち、意欲的に取り組むことができる。

##### 【探究力】

学校教育および子供の発育発達と心身の健康について知的探究心を持っている。

##### 【コミュニケーション力】

自らの考えを表現することや、様々な人を理解することを通して、良好な関係を築くために努力することができる。

##### 【専門力】

学校教育の推進や子供の全人的成長に対応するために必要な基礎学力を持ち、多様な専門教育への興味・関心を持っている。

##### 【教養力】

自然や社会に幅広く関心を持ち、学び続けることができる。

学部等名 法学部
教育研究上の目的（公表方法： <a href="https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html">https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html</a> ）
<p>（概要）</p> <p>本学部は、法学を教授研究することを目的とする。</p>
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： <a href="https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-law.pdf">https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-law.pdf</a> ）
<p>（概要）</p> <p>法学部は、学部の「教育の基本的目標」に基づき、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、学部の定める授業科目の履修を通じて所定の単位を修得した学生に学士の学位を授与します。</p> <p>修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力</p> <p><b>【実践力】 課題の解決に進んで挑む実践力</b> 現代社会に生起する諸事象における法学および政治学に関連する課題に対し、自ら判断し解決しようとする姿勢と解決のための基礎的な能力を備えている。</p> <p><b>【探究力】 多角的な視点から科学的に分析し、課題を見出す探究力</b> グローバル化が進む現代社会の諸問題について、歴史のおよび国際的な視野から多角的に捉え、法学および政治学等の知識を活用して科学的に分析、判断し、取り組むべき具体的な課題を明らかにすることができる。</p> <p><b>【コミュニケーション力】 多様性を認めながら他者と協働するためのコミュニケーション力</b> 多様性や包摂性といった共生・共創のための国際感覚とともに、グローバル化および情報化する社会で多様な人々と協働して活躍できるコミュニケーション能力を身につけ、自らの意見を論理的に展開し、的確に行動することができる。</p> <p><b>【専門力】 具体的な問題解決策を提示できる法的思考能力（専門力）</b> 法や政治等に関する実践的課題に対応できる法的思考能力（リーガル・マインド）を身につけ、具体的な問題に解決策を提示することができる。</p> <p><b>【教養力】 柔軟かつ適正な判断を支える幅広い教養力</b> グローバル化が進む現代社会に対する深い理解とともに、様々な社会集団、社会活動に起因する諸問題に対して、柔軟かつ適正な判断をするために幅広い教養を身につけている。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： <a href="https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-law.pdf">https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-law.pdf</a> ）
<p>（概要）</p> <p>卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、法学部として以下の方針及び考え方にに基づき、教育課程を編成し、実践します。</p> <p><b>教育の実施方針</b> 持続可能社会の実践に向けて学生が主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。</p> <p><b>教育内容の考え方</b> 主体的・対話的で深い学びの視点から、「何を教えたか」から学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容を提供します。</p>

### 【共通教育】

全ての学生に共通して求められる汎用的技能の育成を目指し、他の学生と学び合う、共に育ち共に創る実践的な活動を提供します。

自身の考えと異なる人との対話や協働を進めるために、国際社会や地域社会の多様な課題の解決に必要な知識や技能を身につけるカリキュラムを提供します。

### 【専門教育】

専門領域の内容を体系的に提供することによる深い理解と、異なる専門領域の知識を統合したり、創造したりすることができる機会を提供します。

法学・政治学の体系的な専門知識及び技能を、学生同士が切磋琢磨することにより身につけられるように、各学年で少人数教育を実施するなど多様な学びの選択肢を提示し、社会の実践的課題に対応できる法的思考能力（リーガル・マインド）の修得を目指します。

### 【言語教育】

グローバル社会を生きるうえで必要とされる英語力を伸ばす教育を提供します。聞く、読む、話す、書くを統合した総合力を伸ばすために必要な英語、異文化理解の科目群を通じて言語を学ぶ初修外国語、留学生には日本語、それぞれを学ぶ機会を提供します。加えて、正課のみならず正課外においても言語を学ぶ機会を創出します。

### 教育方法の考え方

前述の教育内容を以下の方法で提供します。

①知識と実践の双方を重視した、主体性を育む教育を展開します。

共通教育、専門教育、言語教育のいずれの分野においても、知識のみならず、実践を取り入れることによって、自ら課題を発見し、解決しようとする、主体性を育む教育を実施します。

②総合大学の特長を活かした教育体系を提供します。

自らの専門を尊重しながらも、様々な専門との出会いにより、共に考え、共に動き、共に創り、共に育む教育体系を全ての課程で展開します。

③学生の成長に応じた実践的な教育プログラムを提供します。

実務家の生きた知見に触れる授業を開講するとともに、留学やインターンシップの機会を積極的に設け、地域や世界とつながった実社会における学びを提供します。

### 学修評価の考え方

法学部では、授業科目の成績評価について、その基準・方法を予めシラバスに明示し、それらに基づいて学修成果を評価します。

より具体的には、試験、レポート、授業中の報告・発表、授業への参加状況など授業の形態に応じて組み合わせた方法によって、法学および政治学その他当該科目に関する基礎的知識を修得していること、修得した知識を活用して問題を発見・解決するために必要な思考力、判断力、分析力、発信力を身に付けていることが厳格に判定されます。

### 正課外教育の考え方

学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる正課外活動を奨励します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：[https://www.okayama-u.ac.jp/up\\_load\\_files/freetext/education-policies/file/3policy-law.pdf](https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-law.pdf)）



<p>(概要)</p> <p>法学部は、以下に掲げた力を身につけた人材を求めます。</p> <p><b>求める人材像</b></p> <p>グローバルな視点から柔軟にものごとを考えようとする探究力、先人の築いた知から、自ら課題を発見し、粘り強く考え、解決策を見出して行動していこうとする実践力、持続可能な社会の実現といった世界の動きに広範な関心を持ち、自らの課題や構想を分かり易く伝えることができる表現力と語学力、学びそのものへの興味を持ち堅実な努力を重ねることができる継続力を身につけている人材を広く求めます。</p> <p><b>求める力</b></p> <p><b>【実践力】</b> より良い社会の形成へ向けて、自ら具体的な目標を設定し、それを実現するため積極的に行動することができる。</p> <p><b>【探究力】</b> 自ら発見した課題に関する情報を収集して整理し、グローバルな観点から解決策を考えることができる。</p> <p><b>【コミュニケーション力】</b> 多様性や包摂性といった価値の重要性を理解するとともに、自らの考えを筋道立てて展開し、話し合いや議論を通じて、他者と協働できる。</p> <p><b>【専門力】</b> 法や政治を中心とした社会に関する基礎的な知識を身につけ、世の中のさまざまな課題へ向きあうことができる。</p> <p><b>【教養力】</b> 国内外におけるさまざまな社会・文化に対する関心のもと、幅広い学びを通じて、多角的な視点から柔軟な思考を行うことができる。</p>
---

<p>学部等名 経済学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：<a href="https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html">https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html</a>）</p>
<p>(概要)</p> <p>本学部は、経済学及び経営・会計学に関する専門の学術を教授研究し、社会的要請に応える人材を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：<a href="https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-eco.pdf">https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-eco.pdf</a>）</p>
<p>(概要)</p> <p>経済学部は、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。</p> <p>修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力</p> <p><b>【実践力】 課題の解決に向けて、意欲的・積極的に取り組む実践力</b> 直面する課題の解決に向けて、自ら意欲的・積極的に行動することができる。</p> <p><b>【探究力】 社会や経済の本質を理解し、課題を見出す探究力</b> 冷静に物事の本質を理解し、何が問題なのかを明らかにすることができる。</p> <p><b>【コミュニケーション力】 他者を尊重し協働するコミュニケーション力</b> 他者の意見や多様性を理解して尊重し、協働することができる。</p>

**【専門力】 経済学・経営学・会計学の知識に基づく専門力**

経済学・経営学・会計学の専門的知識と分析力を活用することができる。

**【教養力】 幅広い学びから柔軟な思考を導く教養力**

幅広く学ぶことで自らの好奇心を刺激し、柔軟な思考力を持つことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：[https://www.okayama-u.ac.jp/up\\_load\\_files/freetext/education-policies/file/3policy-eco.pdf](https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-eco.pdf)）

（概要）

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、経済学部として以下の方針及び考え方にに基づき、教育課程を編成し、実践します。

**教育の実施方針**

持続可能社会の実践に向けて学生が主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。

**教育内容の考え方**

主体的・対話的で深い学びの視点から、「何を教えたのか」から学生が「何ができるようになったのか」を重視して、以下の教育内容を提供します。

**【共通教育】**

全ての学生に共通して求められる汎用的技能の育成を目指し、他の学生と学び合う、共に育ち共に創る実践的な活動を提供します。

具体的には、経済・経営・会計の専門性を支える基盤を作るため、1年次に専門基礎科目を提供します。経済学部の教育・研究がカバーする領域は広く、1年次は、各専門分野に共通する専門基礎科目群から幅広く履修することによって、経済・経営・会計全般に関する基礎知識を修得し、2年次からの本格的な専門教育に備えます。

**【専門教育】**

専門領域の内容を体系的に提供することによる深い理解と、異なる専門領域の知識を統合したり、想像したりすることができる機会を提供します。

**【言語教育】**

グローバル社会を生きるうえで必要とされる英語力を伸ばす教育を提供します。

専門教育科目以外では、聞く、読む、話す、書くを統合した総合力を伸ばすために必要な科目群を学ぶ機会を提供します。専門科目では、3年次以上を対象に、英語による科目を提供します。

**教育方法の考え方**

前述の教育内容を以下の方法で提供します。

- ・経済学、経営学、会計学における高度な専門知識とその応用力を修得するために、講義形式及び演習形式の科目を履修します。
- ・特に基礎研究や卒業研究、実践コミュニケーション論などの演習形式の科目はアクティブ・ラーニングを用いて実施されるため、当該科目の履修によって、報告・発表の経験を積み重ね、能動的な学修を身につけます。それによって、学生同士や教職員との対話を通じて、他者と協働できるコミュニケーション力を養います。
- ・経営者、公務員など、現場の一線で働かれている方々を講師とした多様な講義・演習科目を提供します。演習科目では、企業が抱える現実の課題に対し、チーム毎の解決策を考えていきます。それによって、社会的な課題を発見する力や解決を導く実践力を養います。

**学修評価の考え方**

- ・講義科目の学習成果は、シラバスに記載された学修目標の達成度という観点から、科目の特徴に合わせて、試験・レポート・授業での課題等により評価します。評価方法はシラバス等により明示します。
- ・基礎研究や卒業研究は、課題への取り組み状況や成果の発表状況等により総合的に評価します。キャリア教育科目は、レポート・授業での課題等により評価します。

### 正課外教育の考え方

学生が授業での学びを超えて自らの成長を実感できるように、学者・実務家を招き講演会を開催し、交流の場も設けています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：[https://www.okayama-u.ac.jp/up\\_load\\_files/freetext/education-policies/file/3policy-eco.pdf](https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-eco.pdf)）

（概要）

経済学部は、以下に掲げた力を身につけた人材を求めます。

### 求める人材像

経済学部では、先人の築いた知から経済や社会の課題に迫る実践力、課題と自らの考えを結びつける探究力、自らの課題や構想を他人に分かりやすく伝えられる力、経済や社会に関する基礎的な知識と語学力、学びそのものへの興味を持ち思考力を駆使できる人材を広く求めます。

### 求める力

#### 【実践力】

経済や社会に広く関心を持ち、より良い社会の形成へ向けて、意欲をもって積極的に取り組める人。

#### 【探究力】

経済や社会を動かしている仕組みを理解して、現実の経済や社会が抱える課題を丁寧に考えられる人。

#### 【コミュニケーション力】

より良い社会の形成へ向けた課題の発見と解決に際して、お互いを尊重し個々の多様性を認めた対話ができる人。

#### 【専門力】

経済や社会に関する基礎的な知識を身に付け、現実の経済や社会の課題へ向き合うことができる人。

#### 【教養力】

現実の社会に興味を持ち、より良い社会の形成を目指して柔軟な思考力を駆使できる人。

学部等名 理学部

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/binranindex.html>）

（概要）

本学部は、自然科学の基礎を教授研究し、創造的、思想的及び分析的能力を備えた有為な人材を育成することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：[https://www.okayama-u.ac.jp/up\\_load\\_files/freetext/education-policies/file/3policy-sci.pdf](https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-sci.pdf)）

(概要)

理学部は、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力

**【実践力】自ら進んで、課題解決に挑む実践力**

課題と向き合い、国際的な舞台上で、科学的な知識と考え方で解決に向けて行動することができる。

**【探究力】自ら問うて、課題を見出す探究力**

多角的な視点で対象を把握し、論理的思考により課題を明らかにすることができる。

**【コミュニケーション力】語り聴くことを通して、差異から学ぶコミュニケーション力**

科学的な考え方で論理的な説明ができ、他者との議論を通して物事を理解し自らを高めることができる。

**【専門力】基礎的かつ体系的な専門力**

各学科それぞれの専門分野を学ぶことによって、様々な自然現象の背後にある普遍的な法則や原理を理解するとともに、修得した知識や技能を体系的に組み立て、様々な問題を発見し、その解決に意欲的に取り組むことができる。

**【教養力】自然や社会に関心を持ち、学びを習慣化する力（教養力）**

自然や社会のさまざまな事象に好奇心を持ち主体的に学び続けることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：[https://www.okayama-u.ac.jp/up\\_load\\_files/freetext/education-policies/file/3policy-sci.pdf](https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-sci.pdf)）

(概要)

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、理学部として以下の方針及び考え方にに基づき、教育課程を編成し、実践します。

**教育の実施方針**

持続可能社会の実践に向けて学生が主体的に学び成長し続ける能力を育成する教育を実施します。

**教育内容の考え方**

主体的・対話的で深い学びの視点から、「教員が何を教えたか」から「学生が何をできるようになったか」を重視して、以下の教育内容を提供します。

**【共通教育】**

全ての学生に共通して求められる汎用的技能の育成を目指し、他の学生と学び合う、共に育ち共に創る実践的な活動を提供します。

自身の考えと異なる人との対話や協働を進めるために必要な知識や技能を身につけるカリキュラムを提供します。

**【専門教育】**

専門領域の内容を体系的に提供することによる深い理解と、異なる専門領域の知識を統合したり、創造したりすることができる機会を提供します。

専門科目においては、専門分野の知識や技能を初年次から体系的に修得します。さらに、修得した専門知識を自ら実践・確認し、より深く理解できるようにするための演習や実験、課題研究に取組み、社会の要請に応える自然科学の専門知識と課題発見・問題解決の実践的な能力を身につけます。また、専門基礎科目や理学部共通科目などにおいては、異なる

専門領域にまたがる統合的、学際的な知識や技能を身につける機会も提供します。

### 【言語教育】

グローバル社会を生きるうえで必要とされる語学力を伸ばす教育を提供します。

聞く、読む、話す、書くを統合した総合力を伸ばすために必要な英語を、異文化理解の科目群を通じて言語を学ぶ初修外国語を、留学生には日本語を、それぞれ学ぶ機会を提供します。専門教育においても、専門分野の学びや研究活動を、英語を用いて実践する機会を提供します。

### 教育方法の考え方

前述の教育内容を以下の方法で提供します。

- ① 理学部では、各学科とも専門分野を体系的に学ぶため4年間の一貫した教育コースを設定しています。また、各学科の開講科目を中心に履修し高い専門性を習得するための「専門力プログラム」の他に、科学の最先端で活躍できる研究者・技術者・教育者を目指すための「フロンティアプログラム」（フロンティアコース、フロンティアサイエンティスト特別コース）、学科横断的に学際領域を幅広く学び新しい研究分野で活躍することを旨とする「学際プログラム」（理学系数理・データサイエンスコース、複合領域科学コース）を加えた3プログラムを設定し、学修者は個々の志望に合わせた主体的な学びでディグリー・ポリシーに掲げる学士力を身につけていきます。
- ② 各学科の履修プログラムで定められた卒業要件を満たすように、1年次から4年次までの必修科目・選択必修科目・選択科目を履修することにより、各学科の専門分野の知識や技能・考え方を修得します。専門分野の教育では、講義に加え、演習・実験・実習・ゼミナールなどの少人数教育の利点を生かした実践的な授業も多数設定されており、専門科目で修得した知識を自ら実践・確認し、より深く理解できるような教育内容となっています。
- ③ 学部教育の集大成として4年次で履修する「課題研究」は、配属された研究室において個々の課題の研究やゼミナールを中心とした密度の濃い専門教育を通して、先端的な研究を自ら実施することで、社会の要請に応える自然科学の専門知識と課題発見・問題解決の実践的な能力を獲得できる内容になっています。なお、理学部では、卒業要件単位の他に、「課題研究」を履修するために必要な単位数を設定しています。これは汎用性のある専門知識と論理的な知識の体系化ができてこそ、専門分野における未知の課題に挑戦できるからです。

### 学修評価の考え方

授業科目の成績評価については、その基準・方法を予め明示し、それらに基づいて学修成果を評価します。

### 正課外教育の考え方

学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる正課外の活動を推奨します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：[https://www.okayama-u.ac.jp/up\\_load\\_files/freetext/education-policies/file/3policy-sci.pdf](https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/education-policies/file/3policy-sci.pdf)）

（概要）

理学部は、以下に掲げた力を身につけた人材を求めます。

### 求める人材像

岡山大学の求める人材像である「先人の築いた知から課題に迫る実践力、課題と自らの考えを結びつける探究力、自らの課題や構想を分かり易く表現できる力、自然や社会に関する基礎的な知識と語学力、学びそのものへの興味を持ち工夫できる力を身につけている人材」を基本として、次のような学生を求めています。

1. 自然科学の基礎を学び、その知識や能力を社会で活かしたいと考える人









































































